

morinos 建築秘話 番外編

「morinos のロゴ」をデザインする(morinos 建築秘話番外編1)..... - 1 -

morinos 前史 ~4つの morinos~(morinos 建築秘話番外編2)..... - 6 -

2020年06月08日(月)

「morinos のロゴ」をデザインする(morinos 建築秘話番外編1)

ロゴマーク、と聞くとみなさんは何が思い浮かびますか？

リンゴ。パンダ。黄色い「m」。
など、有名なロゴマークが浮かんだのではないでしょう
か。
今回はこのロゴマークデザインについてのお話です。



morinos を広く届けるには
morinos は「すべての人を森につなぐ」活動全体と建物の
総称です。
活動(ソフト)は、ディレクターのナバさんを中心に、森の
楽しさや大切さを伝えるための先進的なプログラムを、
日夜つくっています。
建物(ハード)は、この建築秘話で書いてきた通りの傑作
(!)になりました。

でもどれだけ面白いことをしても、morinos を知らない
人に morinos を知ってもらわないと、多くの人に伝わっ
ていきませんよね。
最高に美味しいお寿司を握るお店をつくっても、雑居ビ
ルの一室にあって看板も HP もなかったら、誰も気がつ
きません。

日本で最初の「森の入口」morinos を日本中に知ってもら
いたい。
まだ森の楽しさを知らない人たちに、森に来てもらいた
い。
どうしたらみんなに morinos の存在が届くでしょうか？
それも、できるだけ幅広く、誤解のないように。

その方法のひとつが「ロゴマーク」をつくることです。
ロゴの目的は簡単に言うと“他と区別するため”です。
似たような名前の別の組織や商品ができたときの区別の
ためもありますが、ロゴマークは多くのものを含ませて
伝えることができます。

ロゴマークって何？



例えばパンダのロゴで有名な WWF は愛らしいパンダの
シルエットを通して、
野生動物の乱獲問題と自然保護に取り組んでいるという
「意味」含んでいます。
一目見て「ん？パンダ？何か動物に関係した団体かな？」
と思いながら、
正式名称「World Wide Fund for Nature/世界自然保
護基金」を読むと「あなるほど」と腑に落ちますよね。

また、Amazon は品物の動きを示す矢印が、届いた人の
喜びを表す「スマイルマーク」になっています。
このように「企業理念」や「機能」を表現することも可能で
す。
そして、優れたロゴデザインは長い間に人々の記憶に定
着し、
紆余曲折を経てシンプルになっていく傾向があります。

完成した morinos ロゴの解説
前説が長かったですね。
さてそれでは、完成した morinos のロゴがこちら！ジャ
ーン。



・人型 ……【対象】【理念】
ロゴの上部には 4 人の人型があり「老若男女(すべての
人)」を表しています。
象形文字を意識したビジュアルで、原始的なヒトのイメ
ジです。

・山 ……【場所(フィールド)】
山はアカデミー周辺の 3 つの山。

真ん中を古城山(437m)右を演習林(340m)左を小倉山(160m)とし
標高差をそれなりに表現しつつ「山の字」配置にしています。

・建物 ……【場所(拠点)】【機能】

白抜きは morinos の建物。
シンボリックな W 字丸太のファサードが「こういう建物(場所)があって、そこを拠点に行われている活動」ということを表しています。
これがすごく大切。
記号でわかりやすく表すことのできる“他にない形”はこれだけです。
つまり今回のロゴのビジュアル的な主役。
実際には morinos の主役は「そこにいる人と森」ですが、その「人」を集めるために建物の形を使っているわけです。

・長良川 ……【場所(地域)】【理念】

下部の青い直線は、清流長良川です。
川は森とつながって私たちの暮らしを支えているということを表しています。

・文字 ……【名称】【理念】

「morinos」のテキスト。これは硬めのフォントに見えますが、よー——く見ると手書きなのです。だからオリジナルフォント。
手書きらしくアウトラインを震わせて有機的にしています。

いいロゴになってる？morinos ロゴを評価してみる
ロゴデザインで気を付けることは、一般的に下記の 5 つと言われます。

印象的(覚えやすい)
普遍的(幅広く行き渡り、長く飽きない)
多面的(使いやすい)
妥当性(それにふさわしい)
シンプルである

この 5 つの指針に沿って、今回のデザインの評価をしてみよう。

1、覚えやすいデザインか？(印象的)

デザインはいつも「誰に届けるのか？」を考えるとところから出発します。
morinos の場合は「すべての人を森につなぐ」という大きなテーマがあり、特に「まだ森の楽しさを知らない人たちに森の楽しさや大切さを伝える」ことから、そこには“小さな子ども”が含まれます。
よって、誰にでも意味が分かる「図(絵)」にしました。漢字とかアルファベットの形状を工夫するだけのロゴではなく、言葉を超えて小さな子どもたちにもわかるようにです。覚えやすく楽しさが伝わるように、明るい色にしています。

また、人型が象形文字のように歪んでいることの違和感と、建物のシルエットが記号的なことの対比が強いインパクトにつながっています。

2、幅広く行き渡り、長く飽きないデザインか？(普遍的)

飽きないデザインで大切なことは“複雑にしないこと”です。
人、山、建物、川、文字という単純な要素を単純な形で構成していること。
色を 3 色(白を含めると 4 色)に抑えてベタ塗りにしていること。そしてこの配色は変更できること。
最小限の線で構成していること。
無駄を省き、変更できない本質的な部分だけを残すことで、飽きのこない普遍的なデザインにつながっていきます。

3、使いやすいデザインか？(多面性)

実際に morinos ロゴが使われるパターンを列挙してみました。

- ・WEB サイトの最上部に常に表示される
- ・チラシやパンフレットなどの紙
- ・大判ポスター
- ・木にレーザー加工で掘り込んだプレート
- ・名刺
- ・焼印
- ・備品に貼るシール

大まかに挙げるとこのくらいでしょうか。いくつかわかることがあります。

■「どこに行けば morinos を体験できるのか」を端的に伝える必要がある。
せっかく建物を覚えやすい形にしたので、チラシなどをつくるたびに、ウラ面の地図を見て初めてその活動拠点がわかるより、建物の形と山がロゴに入っている方がすぐに伝わります。「ここに来ればいつでも楽しいことをしているよ！」というメッセージが必要です。

■最小サイズは横 2、3 センチ程度になりそう。

2、3 センチまで縮小しても印象が変わらない、シンプルでわかりやすいものが良さそうです。

■モノクロやシルエットのみで使うことも多そう。

シールや看板に使うときは、下地の素材が毎回異なるので、一色で使ったり、シルエットだけで抜き取ったり、季節によって配色を変えたり、いくらでもアレンジが効くように作った方が良さそうです。焼印になっても本質的に変わらないデザインが求められます。だから色にこだわりすぎず、形状だけで成り立つように考えます。

このように、用途を想定しておくことで「使いにくいデザインを回避する」ことができます。

これを頭の片隅に入れて……。
 制作では、最初の打ち合わせで morinos のコンセプトを聞きながら、みんなでロゴを出し合いました。
 その場で iPad に、この記事の冒頭にもあるスケッチを描きました。



これがみんなの気に入り、持ち帰って清書してみることに。
 で、できたのがこちら。



人が現れて、文字がカチツとしました。山は現実に見える順番と高低差に忠実に描いています。
 ところがこれが不評。手書きの文字の方がよかった、という意見が大多数でした。
 実はこの段階で既に、よくみると手書きフォントなのですが、あまり伝わらないようでした。



はい。文字以外の要素をシンプルに図形化しました。山も配置を変えて見やすくしています。代わりに文字を手書きに。
 ……なんとなく、弱々しいですね。ビジュアルの「強度」が足りません。

横書きも含めてたくさん並べて検討。
 この時点で「横書きでも幅 7 センチ程度」という寸法で原寸検討しています。



さらにナバさんから 2 本のラインを追加したものが送られてきました。
 「川と大地を表現する二本線」です。



色と要素が増えすぎると、WEB サイトなどに使いにくくなるので、引き算します。人も無くしてみる？



「人をアーチ状に配置したのだろうか」というナバさんの提案でグッとよくなりました。

ひとつのまとまりが出てきましたよね。
でもまだ文字が決まらない。なにかしっくりきません。



morinos

で、この雰囲気壊さず、覚えやすい文字の形はやっぱり
カチツとした形状です。
手書き感、人型だけの方がロゴの「強度」が上がります。
「i」の字も短く調整。ほぼ出来てきました。

morinos ロゴ完成

色を整えて、完成！でもまだ安心できません。
いろんなバリエーションを用意して置いた方が使いやすいので、
横書きや反転もつくっていきます。

基本ロゴ確定版



色のバリエーション例



反転白抜き version



ロゴデザイン 2019.11.08

やっと完成！納品です。

4、それにふさわしいか？(妥当性)

今回、ロゴデザインはアカデミー教職員で構成されナバ
さんを長とする「生涯教育部門会議」で行いました。
外部のデザイナーに初めから説明するより、
アカデミーと morinos の意義をよく理解したメンバーで
検討した方が良いものができるかと判断したからです。これ
が大正解でした。
コンセプトとしっかりと噛み合ったものになりました。

5、シンプルにできているか？

でもちょっと待って。
無駄を省いたっていうけど、人、山、建物、川、文字……ま
だ要素が多いのでは？
という厳しい意見もあるかもしれません。
確かにもっと減らすことも可能かも？
でもまだオープンしてない morinos です。自己紹介には、
少し多めの意味が込めてある方がいいと思います。
そう、ロゴマークは「自己紹介」になるのです。
morinos がたくさんの人々の記憶に定着したら、
もしかしたら要素が減っていくのもありかもしれません
ね。
もう十分に伝わってるな、と思ったらスマートに変化して
いくのは大切です。

すべての人に伝わるように

こうして、morinos のロゴは出来ました。
「マーク=絵」は言葉を超えてすべての人に伝わります。
いいロゴマークになりましたよね。一人ではなくチームで
意見を出し合って良いものが出来ると、とても嬉しいで
す。

デザインは、論理的に詰めていける「説明可能部分」と、そ
うでない「説明不能部分」があり、
条件を整理して考えることで、良いものに近づいていく
ということデザインのプロセスが、
この記事を通して伝わればと思います。

みなさん、morinos が OPEN したら遊びに来てくださ
いね。
そしてロゴマークがどこにあるか、ぜひ探してください。



木造建築教員:松井匠

2020年09月29日(火)

morinos 前史 ~4つの morinos~(morinos

建築秘話番外編2)

今の morinos を語るうえで忘れてはならないのが 2018年2月3月にかけて行われた1週間の短期集中設計ワークショップです。

すでに、ブログでも紹介していますが、この中でどのような建築提案がなされていたかを記しておきたいと思えます。

過去のブログはこちらから

- ・森林総合教育センター 木造建築ワークショップ スタート
- ・木造建築デザインワークショップ 計画案プレゼンテーション
- ・建築家 隈研吾氏と一緒にデザインワークショップ

この時点で morinos の原案が実は4つありました。

WS 初日の 2018年2月26日に出された設計条件を見てください。

■建築要件-----

構造:木造平屋建て

床面積:延床面積:130㎡程度(±1割程度)

- ・事務所:50㎡程度
- ・交流サロンスペース:70㎡程度(展示・図書スペースを含む)
- ・倉庫:10㎡程度
- ・上記にトイレとミニキッチンも含む。詳細は施主要望書とヒアリングによる。

■性能要件-----

「構造」:耐震等級 3

「劣化」:劣化対策等級 3

「維持管理」:維持管理等級 3

「温熱環境」:温熱等級 4 以上

「省エネルギー」:省エネルギー等級 5

その他、以下の点にも十分に配慮すること

「火災時の安全」、「バリアフリー」、「空気環境」、「光・視環境」、「音環境」、「防犯」

■予算要件

(税抜き工事費):3400万円

■ソフト要件

すべての人と森をつなげ、
森と暮らす楽しさと
森林文化の豊かさを
次世代に伝えていく
...それを体現する施設

第一の案「リファレンスデザイン」

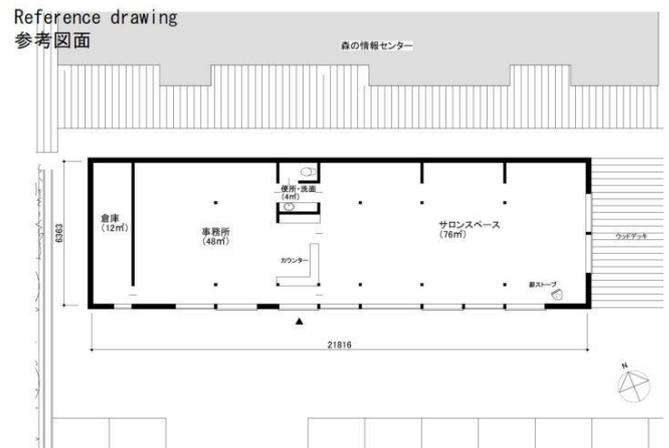
実は学生に設計課題を提示する前に、上記の設計条件で実現可能か、教員の松井さんがシンプルな計画を設計してました。(下図)

必要最小限の機能を埋め込んだシンプルな建物です。ちなみに屋根は切妻屋根。

均等に並んだ柱割が美しく、梁も2間程度のスパンしか飛ばしていない無理のない構造です。

これが morinos に至る最初の設計案です。

課題の中に、空間イメージとして挿入されていました。



この課題出しから約1週間。

学生が寝る間も惜しんで設計に没頭し完成した計画案2案を紹介します。

第二の案「モリノハウス」

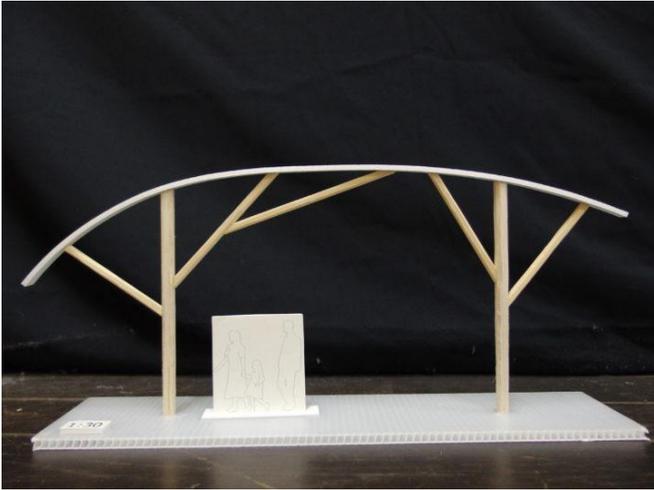
チーム A 玉置 健二(16期生)・大上 優里恵(17期生)・佐藤 美也子(17期生)



モリノハウス

現在の morinos の印象も感じさせるシンプルな大屋根とガラスで構成された外壁です。

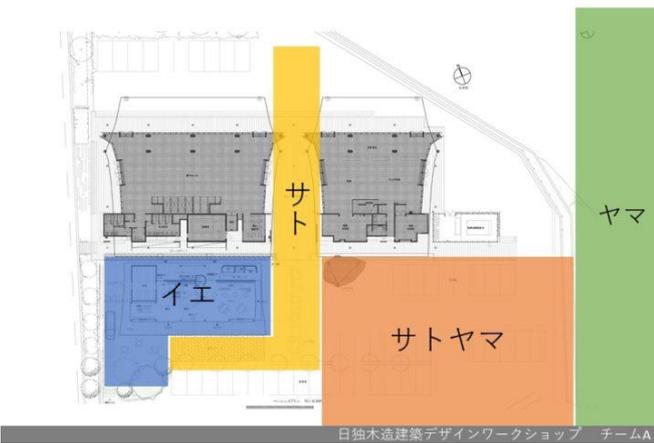
方杖で南の屋根を大きく張り出し、開放的な室内と屋外をつないでいます。



構造は、丸太を使用した樹上トラス構造で、隣接する情報センターをシンプルにした形のアール屋根です。

現在の morinos での丸太使用はこの提案がもとになっています。

ゾーニング



ゾーニング

ゾーニングを見ると、今回の「モリノハウス」をイエとして、そこから演習林のヤマに段階的につながっていく構成です。

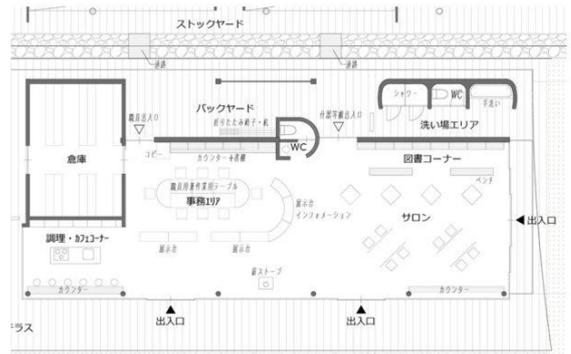
イエという意識で、すべての人(登山靴からハイヒールまで)に居心地の良い空間を提案したいとの思いがありました。

室内は倉庫以外ほぼ一室空間で、さまざまな条件に合わせて可変性を持たせています。

空間構成は、現 morinos と同じ考え方。

使うこと

通常時



日独木造建築デザインワークショップ チームA

建物と駐車場の間に緩衝帯の緑地を設け室内からと駐車場からの視線や動線を緩やかにつなぐ提案となっています。

この緩衝帯や駐車場部分は、現在, morinos の運営の中で徐々に計画が進行しています。

イエのこと



日独木造建築デザインワークショップ チームA

スタッフが木工や道具整理などを行う作業場は、わざと「見せる作業場」として提案しています。スタッフの動きから、いろいろ気づきを得てほしいという現れです。

イエのこと

収納力のある倉庫&バックヤード



日独木造建築デザインワークショップ チームA

現 morinos の見せる収納庫の原型ですね。

次にもう1案の紹介です。

第三の案「つながる まざる」
チームB 八代 麻衣(16期生)・坂田 真(17期生)



来る人 居る人が・・・
つながる まざる

特別な時じゃなくてもふらっと立ち寄りたくなる、そんな空間を目指して計画しています。

重視したのは2つの視点。

1. つい立ち寄りたくなる居心地の良い雰囲気
・路上のテラス席があるような内と外が繋がったカフェっぽい「おしゃれ！」な集いの雰囲気
2. マニアな人だけの空間ではないビギナーに開かれたづくり
・展示物が外からも見えて、内側へ誘導するような展示

このあたりの「おしゃれ！」で興味を惹く展示物のイメージは、現 morinos で再現されてますよね。

内と外が緩やかにつながるように、庭を囲むように建物をまげて、いろいろなところから内部の様子がうかがえ、気軽に入れるように。

一方でスタッフのいるオフィスは、全体が見渡せる場所に緩やかな区切りで配置。



構造は、門型ラーメンフレームを連続させつつ曲げて一体の室内空間を構成。

現 morinos の大空間を構成する V 字柱と大断面集成梁の架構フレームで基本的な構造を担い、不足分を面材耐力壁で構成するというベースになっています。

このラーメンフレームを徐々に曲げることで先が見通しにくい、でもつながっている空間の見え方が非日常な世界を演出しています。



これら、学生チーム2案を短期集中設計WS最終日にナバさんはじめ、関係者、建築家の隈さん等にプレゼンを行いました。



morinos プレゼン

第四の案「morinos 原案」

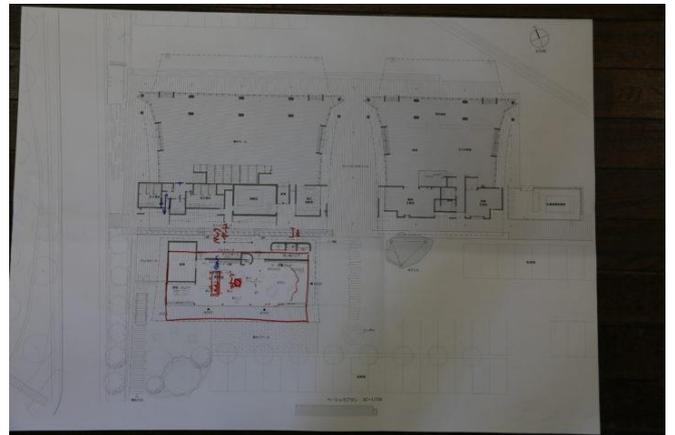
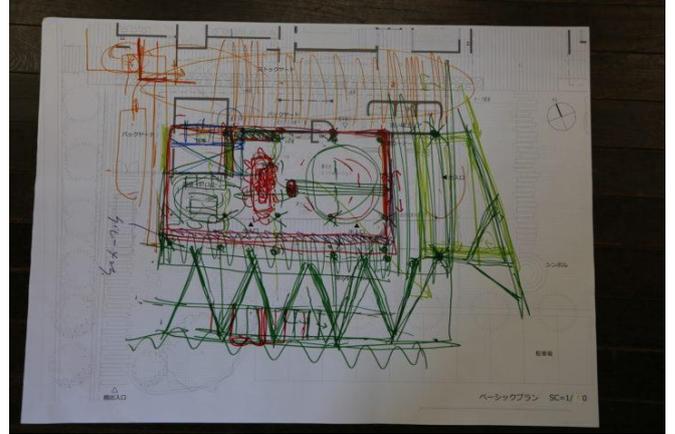
どちらもいいところがあるが、決め手に欠ける。。

その場で、両案のいいところを折衷した別の計画案をその場でつくるというリアルタイムな臨場感あふれるエスキスの始まりです。

隈さん自ら、マジックを片手に「モリノハウス」のシンプルな空間構成の上に重ねていきます。

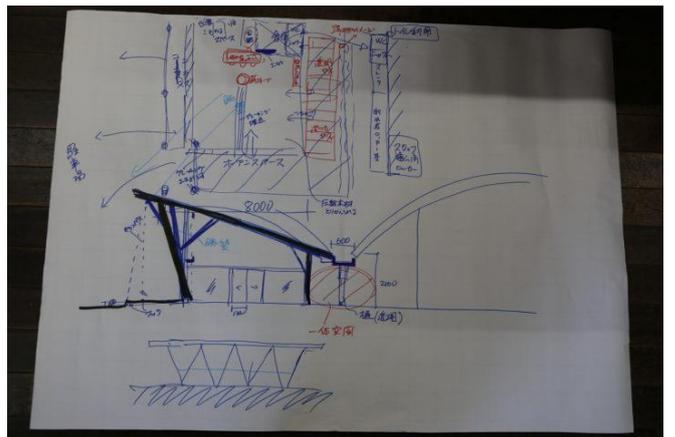
私も隈さんの向かいで、いろいろな意見を図示化していきます。

1時間ほどの時間で完成した「morinos 原案」がこれ。



隈さんスケッチ

学生だけではなく、林政部長や、ナバさん、涌井学長も、それぞれいろいろな意見が飛び出し、またそれを図面化し、徐々に完成形に向かっていきました。



現在の morinos の原型ができました。

このあと、どのようにして、morinos が出来上がったかは、morinos 建築秘話で詳しく解説しています。

准教授 辻 充孝

morinos マニアック-----



実は設計条件の際、ナバさんからいろいろな要望も頂いてました。
さすが、すでに運用イメージがかなり出来上がっているのか、かなり具体的で細かいですね。
現在の morinos でどこまで実現できているのかな…。
皆さんも、ぜひ比べてみてください。

<基本的な建物のイメージ>

- 1 「ウェルカム感」のある開かれた、入りやすい(入りたくなる)雰囲気。
- 2 1階建
- 3 気軽に立ち寄れる
- 4 静かで快適な空間
- 5 お気に入りのカフェと図書館とサロンが合わさったような空間
- 6 胎内の中にいるような心地よさ
- 7 でもここにいると外の森に行きたくなるような気持ちになる
- 8 小さなお子さん連れの親子が快適な空間
- 9 ここに来れば何かある！誰かに会える！と思えるような場所
- 10 境界のない空間
人と森、スタッフと来訪者、子供と大人、室内と屋外、全てがボーダーレス
- 11 平等な関係性

<建物全体のコンセプト>

- 1 日本の伝統的な技術とドイツのヴァルドルフ建築を融合させたもの
- 2 開放的な空間(ガラス張りのイメージ)
- 3 ウェルカムで、魅力駆な空間
- 4 パーマカルチャーにおける建築のあり方をふんだんに取り入れたもの
(自然エネルギーの活用。住む人のエネルギー最小限に、リサイクル、マルチパーパス、バックアップシステムなど)
- 5 建物そのものが持続可能な森林文化の良いサンプルであること
- 6 四角い大きくてシンプルな空間。(三角とか丸とか奇抜な形はNG)
- 7 「隔たりがない」「つながる」雰囲気
スタッフと県民 大人と子ども プロとアマ 林業家と教育者
- 8 靴を履いたまま気軽にアクセスできる
- 9 ユニバーサルアクセス
- 10 薪を使った暖房&給湯システム(それを展示として見える化する)

<必要な要素>

(屋内)

- ① オープンスペース(多目的サロンスペース・展示&本棚スペースも)
- ② インフォメーション カウンター
- ③ 図書
- ④ 展示コーナー
- ⑤ 事務所
- ⑥ トイレ

- ⑦ キッチン(給湯スペース)
- ⑧ 倉庫

(屋外)

- ⑨ オープンテラス(屋根付き)
- ⑩ 簡易シャワー(余裕があれば)

<それぞれの機能についての詳細>

オープンスペース(多目的サロンスペース)
入りやすく、暖かい雰囲気。
メインの大きな入り口と、裏口とがある。
(いろいろなところから出入りできると良い。)

柱のないオープンスペース
(輪になって座った時に中に柱がないようなつくり)
20人から30人が入ってワークショップができる空間
(サロンにもなるし、ヨガやクラフト、セミナーもできる)
用途に応じてスペースを自由に変更できるつくり
(椅子&テーブルだったり、床だけだったり、上映会したり。。。)
片隅に森に関する本がたくさん並んでる。
森で見つけた面白いものを展示できる可動式の台がある。
森に関する活動の情報交換(利用者同士含む)コーナーがある。
トイレや炊事コーナー(セルフカフェなど)が利用できる。
グループでも使えるし、個人でも使える。(読書や仕事など)
外が見渡せて何かあればすぐ外に出られるつくり
(外で何か危険なことが起きそうな時にすぐに出ていける)

和める。森に行きたくなるつくり
ガラス沿いにカウンター席にも展示台にもなるような机もあると良い。
ガラスを開け放すことができる(外と中がつながる)
オープンテラス側を開け放してテラスとつなげることができる。
どんなことをこのスペースでやるイメージか
1 人々が集いここでワークショップを行う
2 特に雨の日に、プログラムの開始やまよりの時に使う
3 カフェスペース
4 もちろん展示や情報も楽しめる
5 図書館から森の本を受け取り試して見たい。
インフォメーション・カウンター
可動式でも良い
大人二人が並んで作業してもゆとりのある広さ
ビジターの対応やイベントのパンフレットや季節の小物を展示。
壁になるようなものや、ガラスで塞いだりしない。
このカウンターの前後で、必要時のみ、事務所とオープンスペースが仕切れると良い。
(普段は開放されている。)
(事務所とオープンスペース間の音と光をある程度抑えられる)
(事務所側をロックしてオープンスペース側だけ使える。とか)

子供でも(幼児)でも対応できるような高さ(顔が見える高さ)
事務所からオープンスペースが見渡せる。
オープンスペースからも事務所内が見える。
カウンター裏(事務所側)には資料やストックをおける棚がある。
図書コーナー
据付ではなく移動できる棚
森や木、教育に関する本・図鑑・絵本がたくさん置いてある。
(天井くらいまでの高さの本棚が4つくらい)

子供図書コーナーも
誰もが本にアクセスできる
展示コーナー
オープンスペースの一角に(壁やガラス沿い等)展示可動式
高さは子供でも届くもの
教育的目的を持ったハンズオン展示や閲覧展示の台となる。
事務所
6人程度が、開放的&クリエイティブに仕事ができる空間
スタッフ間のコミュニケーションがとりやすい空間
オープンスペースで起きていることがすぐわかる
オープンスペースから見た事務所も雰囲気が良い。
オープンスペースから声がかけやすい
ここに仕事したり、集まってグループでミーティングしたり、
作業したり(展示や解説用具の製作)できる空間もある。
コピー機やプリンターやパソコンのスペースも

どんなことをこのスペースでやるイメージか
1 6人がここで働いたりミーティングしたりしている
2 外からのゲストやクライアントとミーティングする
3 教材を創作する

トイレ
ビジターもスタッフも使えるトイレ
ユニバーサルアクセス
子育てママやパパも使いやすいもの
森に行きたくなるトイレ
簡易キッチン&給湯スペース
ビジターもスタッフも使える場所
コーヒーやハーブティーを入れたり、軽食作ったり、洗い物したり
洗い物ながらもオープンスペースが見える。
(例えば子供が遊んでる姿をチェックしながら洗える)

開放的な空間(オープンスペース)
料理教室みたいなものにも対応できるイメージ
倉庫
ウォークイン式の倉庫(両側壁面に棚)
環境教育プログラムや野外教育プログラムの備品を保管
6~8畳くらいの広さは欲しいところ
ある程度の高さ(4m)はあると嬉しい(長いものをしまえる)
オフィスと外からのアクセスが良い

(屋外)

オープンテラス(屋根付き)
天気の良い日に外でテーブルや椅子でゆっくりとできる空間
雨の日は、ここでプログラムをスタートしたりクロージングしたりできる
20人くらいが外の空気を感じながらここでプログラム体験できる
オープンスペースのガラスを開ききるとこのテラスとつながる仕組み。
5. 外で遊ぶ子供たちをここで座りながらゆったりと見守れる。
⑩ 簡易シャワー(余裕があれば)

作業をした人やドロドロになった人が汗を流せる簡易シャワー
小さくても 脱衣スペースと合わせて幅1m×奥行2m程度
2台程度あると嬉しい
薪ボイラーシステム+ガスのバックアップシステム
長い……。

たくさんある要望やイメージ。
まだ実現できてないものもあります。
これからも進化する morinos にご期待ください。